

成 日佑

同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻 博士後期課程

介護保険成立における日韓比較研究－社会問題としての介護と老人長期療養－

本研究は老人長期療養に関する問題が社会問題として、どのように登場したかについて、報道機関を通じた 이슈化の過程およびマスメディアの対応と国民支持に対する日韓比較を試みる。また、社会福祉学界の関心と研究動向を調べ、政策議題として登場することになったきっかけについて論じることとする。

日本と韓国の 3 大新聞を対象に、「介護保険」、「老老ケア」、「社会的入院」、「高齢者虐待」、「介護の社会化」という検索語で検索した結果を比較してみた。5 つの検索語すべてにおいて韓国より日本の検索件数が多いことが分かる。特に、「介護保険」に関する記事の検索件数は日本が韓国の 30～50 倍に達するほどである。インタビューなどから日本の方が明らかに多いことが確認できる。

社会福祉学界の関心と研究動向をみると老人長期療養問題が政策議題として決定される 1999 年以前にはこの問題は社会的に大きい反響を引き起こすほど公論化されておらず、学界の専門家集団でも具体的な政策代案について議論が集中したり、問題認識が広範囲にわたって成立したりすることはなかった。ただ、高齢化社会突入という人口学的変化に直面し、高齢化社会に対する社会的対策の必要性については誰もが共感しており、より積極的な高齢者福祉制度に関する検討と要求があった。